

2019年度愛知県がんセンター公開講座(第5回)のご案内

「大腸がん診療の進歩」

= 令和2年2月29日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「大腸がんの撲滅に向けて内視鏡ができること」

大腸がんは、部位別がん罹患数で第一位、死亡数で第二位と増加傾向にあるがんです。これまでその背景には食生活の欧米化があるとされてきました。しかし現在では人口当たりの大腸がん患者数は米国より日本の方が多くなっています。それは米国では国をあげて大腸がんの撲滅に取り組んだ結果でもあります。がん治療は日々進歩していますが、一番はかんにならないこと、早期発見が大切です。当日は大腸がんの撲滅に向けた取り組みについてわかりやすく解説します。

内視鏡部 部長 田近 正洋

< 講師からのメッセージ >

「大腸がんの手術療法ー特に再発手術についてー」

大腸がんが他の臓器のがん(胃癌、すい臓がんなど)と大きく異なる点は『手術療法が最も有効である。』ということです。仮に再発しても手術で取り切れるのであれば、手術をするという方針は世界的にも認められています。ただし、その手術はどこの病院でもできるわけではありません。高度な技術と豊富な経験が必要とされます。昨今、手術が可能な再発に対しても、化学療法を優先するケースが増えていますが、がんをゼロにすることはできませんし、永久に続けられる治療でもありません。(局所)再発手術についてお話ししたいと思います。

集中治療部 部長 小森 康司

< 講師からのメッセージ >

「がんの遺伝診療からせまる大腸がんの予防・早期診断・治療」

大腸がんを発症された方の3-5%は、生まれつき高率にがんになりやすい体質を決める遺伝子の変化を持っておられます。中でもリンチ症候群は、大腸がんだけでなく子宮内膜がんなど様々ながんが発症しやすくなる遺伝性腫瘍症候群です。頻度が高いことから診断できれば次に発症するがん、あるいは同じ遺伝子変化を持つご血縁者の未発症のがんを早期発見できる可能性もあるため見逃さないことが重要です。このため、体質を知ることや血縁者への影響については、遺伝カウンセリングで支援を行なっています。本講座では、誰もが他人事ではない遺伝性大腸がんとその診療への取り組みをご紹介します。

リスク評価センター センター長 井本 逸勢